

めぐみイエス・キリスト教会

2022年4月17日(日)第三主日イースター礼拝
週報「通算第604号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌316「御言葉なる」 p. 500

【交読文】 No.18 詩篇第50篇 p. 892

【賛美Ⅱ】 新聖歌101「イエスよ十字架に」 p. 141

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.2「ビジョン」

【聖書朗読】 ルカの福音書24章1節～11節(新約p. 172上段)

【礼拝説教】 《主イエスの復活》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書24章1節～11節)

24:1 週の初めの日の明け方早く、彼女たちは準備しておいた香料を持って墓に来た。

24:2 見ると、石が墓からわきに転がされていた。

24:3 そこで中に入ると、主イエスのからだは見当たらなかった。

24:4 そのため途方に暮れていると、見よ、まばゆいばかりの衣を着た人が二人、近くに来た。

24:5 彼女たちは恐ろしくなって、地面に顔を伏せた。すると、その人たちはこう言った。「あなたがたは、どうして生きている方を死人の中に捜すのですか。」

24:6 ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、主がお話しになったことを思い出さない。

24:7 人の子は必ず罪人たちの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえると言われたでしょう。」

24:8 彼女たちはイエスの言葉を思い出した。

24:9 そして墓から戻って、十一人とほかの人たち全員に、これらのことをすべて報告した。

24:10 それは、マグダラのマリア、ヨハンナ、ヤコブの母マリア、そして彼女たちとともにいた、ほかの女たちであった。彼女たちはこれらのことを使徒たちに話したが、

24:11 この話はたわごとのように思えたので、使徒たちは彼女たちを信じなかった。

●ポイント1. 「ラザロのよみがえり」から学ぶべきことは？

※ヨハネの福音書11章17節～44節「死後四日の後に」(新約p.205上段)

※ヨハネの福音書5章28節～29節「ユダヤ人に向けて」(新約p.186下段)

5:28「このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者がみな、子の声を聞く時が来るのです。

5:29 そのとき、善を行なった者はよみがえっていのちを受けるために、悪を行なった者はよみがえってさばきを受けるために出て来ます。」

●ポイント2. 「ベタニヤ」にて

※ヨハネの福音書12章1節「過越の祭りの六日前に」(新約p.207下段)

12:1 さて、イエスは過越の祭りの六日前にベタニアに来られた。そこには、イエスが死人の中からよみがえらせたラザロがいた。

●ポイント3. 「主イエスの復活」こそ私たち(クリスチャン)の最大の希望

※第一コリント15章19節～22節「使徒パウロの理解」(新約p.350下段)

15:19 もし私たちが、この地上のいのちにおいてのみ、キリストに望みを抱いているのなら、私たちはすべての人の中で一番哀れな者です。

15:20 しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。

15:21 死が一人の人を通して来たのですから、死者の復活も一人の人を通して来るのです。

15:22 アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストにあってすべての人が生かされるのです。

◎先週の礼拝メッセージの概要【しゅろの日曜日】

《今週は「受難週」です。その最初の日が、しゅろの日曜日です。今回は、マタイの福音書から、主イエスが「しゅろの日曜日」に示された、旧約聖書におけるメシア預言の成就を見て行きたいと思います。この日において、ご自身こそが神の御子であることを、ユダヤ人の指導者たちに、弟子たちに示されました。特にゼカリヤ書の預言が成就します。

『娘エルサレムよ喜び叫べ。見よ、あなたの王があなたの所に来る。義なる者で勝利を得、柔和な者で、雌ろばの子である、ろばに乗って。』と。

人々は、木(しゅろの木)の枝を振って、主イエスをお迎えするのです。『祝福あれ。主の御名によって来られる方に。枝をもって祭りの行列を組め。祭壇の角の所まで。』と、この預言は詩篇118篇に書かれています。それから主イエスは異邦人の庭に入られ、宮きよめをなされるのです。『私の家は祈りの家と呼ばれる』と書いてある。それなのに、おまえたちはそれを『強盗の巣』にしている。』と、両替人たちを追い出します。

ヨハネの福音書によりますと、今回の宮きよめは、二回目になります。主イエスは、公生涯の初期において、エルサレムに巡礼されたのです。『さて、ユダヤ人の過越の祭りが近づき、イエスはエルサレムに上られた。そして、宮の中で、牛や羊や鳩を売っている者たちと、座って両替をしている者たちを見て、細縄でむちを作って羊も牛も皆、宮から追い出し、両替人の金を散らして、その台を倒し、鳩を売っている者たちに言われた。「それをここから持って行け。私の父の家を商売の家にしてはならない。」「こんなことをするからには、どんなしるしを見せてくれるのか。』』

この質問の答えが二回目の宮きよめでなされたのです。『また、宮の中で、目の見えない人たちや足の不自由な人たちがみもとに来たので、イエスは彼らを癒やされた。』と書かれており、イザヤが預言した、メシアのしるしである奇跡を行なわれたのです。しかし、それでも祭司長たち、パリサイ人や律法学者たちは、主イエスを信じようとはしなかったのです。》

◎お知らせ

※次回の礼拝は午前10時から行ないます。また5月8日(日)の第二礼拝は、時間変更して午後2時からとなります。今日は感謝会があります。